

第2章 感染症及び食中毒統計

§ 1 一類、二類、三類、四類及び五類感染症

医療技術の進歩により、多くの感染症が克服されてきた一方で、新たな感染症の出現や既知の感染症の再興により、感染症予防に関する施策の抜本的な見直しが必要となり、平成11年4月「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が「伝染病予防法」にかわり新たに施行され、以来平成15年、18年、20年の3回の改正が行われた。

感染症法では、発生した場合の危険性から全101疾病について一類から五類までの5つの類型にわけ、それぞれの対応が決められている。

表45 年次別患者等数（一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症） 平成22年

	一類	二類	三類					新型インフルエンザ等感染症	総数
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、S A R S（結核は別集計）	コレラ	細菌性痢疾	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス		総数
平成20年	-	-	-	3	31	1	-	-	35
21	-	-	-	4	32	1	-	135	172
22	-	-	-	2	33	1	-	-	36
川崎	-	-	-	-	6	-	-	-	6
幸	-	-	-	-	7	-	-	-	7
中原	-	-	-	1	9	-	-	-	10
高津	-	-	-	-	5	-	-	-	5
宮前	-	-	-	-	3	-	-	-	3
多摩	-	-	-	1	3	1	-	-	5
麻生	-	-	-	-	-	-	-	-	-

新型インフルエンザ等感染症については全数報告期間（平成21年4月29日～7月23日）の確定患者数

資料：健康安全室

表46 月別患者等数（一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症） 平成22年

	総数	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
細菌性赤痢	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸チフス	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
パラチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	33	-	2	-	1	1	-	6	13	7	2	1	-

資料：健康安全室

表47 年齢階級別患者等数（一類、二類、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症） 平成22年

	総数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～
細菌性赤痢	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸チフス	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
パラチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	33	2	4	4	3	7	-	3	2	4	-	-	-	4

資料：健康安全室